

<h2 style="text-align: center;">産業廃棄物処分場</h2> <p style="text-align: center;">～産業活動に不可欠な佐賀県内最大の処理施設～</p>	分野	産業
	地域	鎮西
◎地図・写真・統計資料など		
<p>地域の暮らし、経済活動に不可欠であっても、身勝手ながら身近には出来てほしくないような施設がある。廃棄物処分場もそのような施設に入るかもしれない。</p> <p>平成21年4月から本格稼働している唐津市鎮西町菖蒲の産業廃棄物処分場「クリーンパークさが」も住民の理解を得るまで多くの時間と苦労を経て実現した施設である。</p> <p>県内最大、最高の処理能力を誇るこの施設は、県や市町村、県商工会議所連合会などの団体が出資した財団法人・佐賀県環境クリーン財団が運営している。焼却・溶融、破碎、中和の各施設があり処理能力は1日約100t。高いレベルで排ガスや排水を処理し、特別のシートで地下水への漏水を防ぐ施設となっている。廃棄物の受け入れは、隣県での災害発生など特別の事情を除き、県内発生分に限り受け入れている。</p> <p>こうした新鋭の公害防止計画で設置の準備を進めてきたが、地元住民の不安は強く、当初から強い反対運動が行われた。計画の発端は、平成3年（1991）に唐津市の民間業者が現地に大型の産業廃棄物処分場を計画、いったん県は許可をしたものの、県外から大量の廃棄物を持ち込む計画だったため、住民が反対運動を始めた。県は施設と営業権を買い取り県営での処理を計画した。</p> <p>しかし、地下水への汚染、焼却施設からのダイオキシン発生などの不安から地元の理解は進まず、特に下流域となる湊地区は署名などによる反対運動を繰り返した。交渉を重ね、公害対策の説明とともに、地元振興策を提示して協定締結にいたり、110億円を投入して処分場を完成させた。</p>	◎引用・参考文献（出典）	
<p>地元との協定書では15年間の稼働となっているが、リサイクルの進展で処理量はかなり減少し、収支状況も含め今後見直しされる可能性もある。県環境クリーン財団では「高度処理を行う安全、安心の施設として住民の方々との信頼関係を保つためにも、廃棄物処分場のモデル施設として運営をしていきたい」と話している。</p>	◎もっと詳しく知りたい方は	
<p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>		